

## 取組みの主な進捗状況

### 生活のDX

#### 「福井県知事杯ハッカソン2024」を開催

9月末～11月上旬にかけて、ハッカソンを開催しました。敦賀市「空き家の利活用」、鯖江市「市民の声を政策に反映させるデジタル・プラットフォームの整備」の課題解決を目指し、各チームがアイデア出しとプロダクト開発を行いました。現在は実装を目指す動きが進んでおり、12月には鯖江市で、プロダクトのメリット・デメリット等について市民と意見交換を行いました。



#### 介護ロボット導入に向けた意見交換会を開催

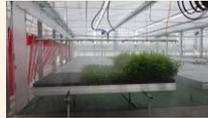
県では、4つの介護事業所をモデル事業所を選定し、介護ロボットやICT機器等の導入・活用による介護現場の業務改善等の伴走支援を行っています。12月に、4事業所による課題、取組み状況、対応方針等の意見交換会を行いました。今後、4事業所が取り組んだ先進事例を発信し、県内の介護事業所への展開を目指していきます。



### 産業のDX

#### 林業DXで県内初！環境制御システムを導入

県では、人工林の利用増加で苗木の需要が高まる一方、県産苗木の供給が追いついていないことが課題となっています。そのため、坂井森林組合の苗木生産施設（Wood Nursery SAKAI）では、生産コストや労働負荷の低減を目的として、ハウス内に設置したセンサーで温度や湿度などの環境を監視し、自動制御も可能な環境制御システムを導入しました。今後も林業DXを進め、人手不足等の課題解決を目指します。



#### 自動運転の実証が県内各地で実施

越前市では、10月に自動運転バス（レベル2）の一般車道での運行実証を行いました。運転手不足が課題となる中、自動運転技術で地域の交通手段の確保を目指します。昨年からの国内初のレベル4（特定条件下における完全自動運転）の移動サービスを本格運行している永平寺町では、

今年12月に、MR技術を搭載した車両の実証を行いました。移動手段にエンターテインメント性を付加し、今後の観光振興に繋がります。



### 行政のDX

#### 第2回DX推進本部会議を開催しました！

11月に、第2回DX推進本部会議を開催しました。アナログ規制の見直しや徹底した業務変革、デジタルの社会実装の推進を重点的に行うことを確認しました。電子契約の導入やブッシュ型行政の推進など、今後も県民利便性の一層の向上に努めます。



#### 業務特化型生成AIの活用を開始

県では今年度から業務に生成AIを活用していますが、12月からは、県独自のデータを扱う業務特化型生成AIの利用を開始しました。まずは会計事務の分野で、職員からの問い合わせ対応に活用します。今後も、生成AIを活用した更なる業務効率化や生産性向上を目指します。



## 最近の県内の動き

#### マッチングシステムで家事代行利用を推進

令和5年度の未来技術活用プロジェクトにて実証を行った（株）CaSyと福井県が、連携協定を先月11月に締結しました。共働きの多い福井県では、家庭における家事負担が大きい一方、ハードルの高さから家事の外部的化は進んでいないという課題があります。自動マッチングシステムにより、家事代行の利用手続きにおける煩雑さを解消し、県内の家事代行利用の普及を目指します。



家事負担軽減や家族時間・ゆとり時間を創出し、福井で働く方々の仕事と家庭の両立支援の充実を図っていきます。

#### ポイント配布による行動変容を促進！

県内各地で、ポイント付与による行動変容の取組みが行われています。健康分野では、歩いた歩数や健康的な食事、検診受診などに応じてポイントを付与し、健康づくりの習慣化を目指します。



他にも、嶺南地域において1か月の節電効果が高かった世帯にポイントを配布し、節電行動の習慣化を促す事業などがあります。今後もポイントを活用した行動変容を促進し、多様な分野での課題解決を目指していきます。

#### 地域の中でのデジタルデバйд対策



福井市では、地域の中でスマートフォンなどのデジタル活用法を教える「まちのデジタルサポーター」の育成に取り組んでいます。サポーターとして人に教えるコツを学ぶ講座と、実践の場としてのスマホの使い方教室を実施しています。23名の受講者に対して、のべ32名のサポーターがスマホの使い方をレクチャーしました。今後もデジタルデバйд対策を推進し、誰一人取り残されないデジタル社会の実現を目指します。